

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔を！持続可能な幸せサイクル！



澤田 梨瑚(さわたりこ)
兵庫県立洲本実業高等学校 3年

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔を！持続可能な幸せサイクル！

澤田 梨瑚



活動概要

活動の内容

11月15日(土)と16日(日)に、城下町洲本再生委員会が主催する「レトロなまち歩き」においてブースを出店しました。自然豊かな淡路島だからこそ抱える獣害の問題を多くの人々に知ってもらい、少しでもそれを解決することを目的として、地域住民や島外からの観光客を対象に、南あわじ市八木馬回集落で獣害対策として伐採した木を加工したカッティングボードや同地区で採れた農作物、果物を使用したジャムを販売しました。また活動を広めるために、同地区産のヒノキを利用してどんぶりアートを作るワークショップを行いました。

活動の特徴(新規性・発展性)

woodが幸運を選び、皆を笑顔にします。八木馬回集落では、多くの農家さんが獣害に苦しんでいます。伐採する木の使い道が広がれば、仕事が増えて笑顔になる人たちがいる。その製品を使用する私たちの暮らしが豊かになり笑顔になる。たくさんの農作物が収穫できて農家さんたちが笑顔になる。おいしい野菜をたくさん食べることができて私たちが笑顔になる。それが「持続可能な笑顔社会」を目指した私たちのプロジェクトです。

活動の成果

イベントの販売では、野菜や未利用の果物を使用したジャム等、多くの商品を完売することができました。また高価ではあるものの、カッティングボードを数点販売することができました。またワークショップでは、合計70名の子どもたちが工作体験をしました。これらを通して、多くの人々に八木馬回が抱える問題や活動内容を知ってもらうことができました。またカッティングボード制作の仕事を作り出すことができました。

課題の設定と意図

私たちは地元淡路島が大好きです。2年生時のフィールドワークを経験し、より地域に愛着が湧き、未来の淡路島の活性化のために何かできないかと思うようになりました。淡路島は観光業が盛んで、近年では西海岸に新しい商業施設が次々にオープンしています。当初は明るい側面には目がいきませんが、自然豊かな淡路島だからこそ抱える問題があるのではないかと考え始めました。

地域で活躍している方や行政の方々から話を聞いたり、フィールドワークを重ねる中で獣被害の問題を知ることになりました。南あわじ市の山間にある直径4kmほどの八木馬回集落を訪れ、地元住民に話を聞くと、集落では人口が減少し、植林計画がうまく引き継げず、森が荒れた状態になったそうです。対策として林地と畑・水田の境界に20mのバッファゾーンを作り始めているとのことでしたが、農作業の片手間であり、お金にもなりにくい作業なので思うように進んでいないと話してくれました。そこで、伐採した木の使い道が広がれば、より伐採が進み、問題が少しでも解決するのではないかと考え、これを課題に設定しました。

課題解決のための仮説と計画

まず、伐採された木の使い道を広げるために何をすればいいのかをみんなで話し合いました。そこで、木材を使った新しい製品を作り、それを人が集まる場所で販売するとともに、同時に八木馬回集落の獣害問題を知ってもらい支援を募るのが良いのではないかと考え、実行することになりました。まず自分達の力では木材を使った製品を作ることが難しいので、ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)さんに協力を依頼することになりました。そこでは、外国産の木材を使って、カッティングボードを作るという活動をされていたので、八木馬回産の木材を使ったカッティングボードを作ってもらえるようお願いしました。次にどこで販売するかを考えました。地元の洲本市で1番多くの人々が集まるイベントである、レトロなまち歩きに目をつけました。ブースを出店させてもらえるよう、プレゼンを聞いてもらい、イベントに参加させていただけるようになりました。またSODAさんに、神戸市東灘区の読売新聞甲南販売さんを紹介してもらい、都会の方々にもPRできる場を与えていただきました。12月4日にレトロなまち歩きと同様のイベント開催を予定しています。次に、どうやってより多くの方に八木馬回集落の獣害問題について知ってもらうかを考えました。ブース内にパネル展示をすることに加えて、同地区産の木材を用いてワークショップを行うことで多くの人々が集まるのではないかと、そして子どもを対象にすることで親子で参加してもらい、この問題について話をするきっかけを作れるのではないかと考えました。また、ブース内ではカッティングボードの他に、八木馬回で収穫された新鮮な野菜や、未利用の果物を使ったジャムを販売することで、より八木馬回の生活や私たちが守るべきものをイメージできるようにしようと考えました。そして、ブース内には新たな商品開発の資金を集めるために、支援金箱を設置することになりました。



活動で工夫できたこと

この活動で工夫したところは、POPや価格表示のデザインにこだわったところです。実際に美菜恋来屋という地元の食材を販売しているお店の方にPOPの書き方を教えていただきました。POPを書くのに色は3色までしか使わないことやお客さんが買いたくないような一言を入れるのがポイントだと知りました。色を使いすぎると見づらく、お客さんにどこが大切かわからないからです。POPには商品名・値段・一言を入れます。商品名は見やすく大きな文字で、値段は分かりやすく目立つ色で、一言はお客さんの興味や買い物意識を掻き立てるようなインパクトがあるように。このポイントを使い、何時間もかけて作成した結果、自分たちが売りたいものが売れたり、お客さんにPOPを見て私たちが伝えたい重要な部分が伝わりました。そのことから私はPOPや価格表示のデザインの大切さを強く感じました。

また、ワークショップで子どもたちと関わるのでどういう風に説明をすればわかりやすいか、何ができて何が難しいかを自分なりに考えました。子どもたちに難しい言葉で説明をしても理解してもらえず、子どもたちもつまらなくなります。なので、普段より声を少し高めにして話したり、大きくリアクションをしたりしました。他にも作業の中で子どもだけでは少し難しい作業もあったので子どもたちと一緒に作業をしたり、前もってその作業を進めておいたりして、子どもたちが楽しんでどんぐりアートを作れるようにしました。

また、エコの視点から、買っていただいた商品を新聞紙で作ったエコバッグに入れて持ち帰っていただきました。SODAさんと会議を進めていく中で新聞紙を使ったエコバッグだと環境にも良いと思い、案を出し、実際に作りました。エコバッグを自分たちで作ることでSDGsに取り組むことができました。



活動で得た学び・気づき

私は今回の活動を通して三つのことを学びました。

まず一つ目は企画を考えることの大変さです。私たちはまず初めに授業で何をしたいのか、どんなことをすれば地域が活性化できるかを詳しく一人ひとり考えました。その中で、地元の農家さんを助けたいという案がありました。今回の活動では、獣害対策として伐採された木を使うことで獣害被害に困っている農家さんの力になることができました。さらに、八木馬回集落で育てられている果物のうち、未利用のものを使用したジャムを販売することで、フードロスの削減にも取り組むことができました。企画を考える力は高校を卒業して大学に進学してからや就職してから必要になる力です。今回の活動で企画を考えることがどれだけ難しく大変なのか、具体的にどういう風な企画だとお客さんや子どもたちが楽しめるか、第三者の気持ちになって客観的に企画を考えることが出来ました。

二つ目は人と人のつながりです。今回の活動では、学校外の方と関わる機会が多くありました。普段、学校外の大人の方と関わったり、一緒に企画をしたりすることはないので初めはとても緊張していました。その中で失礼のないように私は、敬語やマナーに気を付けるようにしていました。普段の学校生活で教えられる挨拶や授業で習った敬語を意識して使うことでさらに関係性が築けたと思います。八木馬回集落の方やSODAさん、美菜恋来屋の方たちは気さくな方が多く、私たちの活動にとても協力的でした。今回の活動は、たくさんの方たちによって成功したと私は思います。人と人のつながりはこれからも大切になっていきます。今回の活動で学んだつながりの大切さをこれからの将来にも活かしていきたいと思っています。

そして三つ目は、責任感の大切さです。今回の活動では週に3時間しかない授業で企画を考えたり、実際に八木馬回集落に行って伐採された木を見たり、インタビューをしたり、エコバッグを作ったり、POPを作ったり、準備物を用意したりとやることも多く、なかなか時間内に終わることができませんでした。なので放課後に残って夜まで作業することが多くありました。しかし、残っているのはいつも同じメンバーで負担の大きさがバラバラでした。そのことから1人1人にノルマを決め、ノルマが達成できなければ放課後に残るというルールを決めました。ノルマを決めることで一人ひとりに責任感が生まれ、やり遂げなければいけないという意識を持てるからです。責任感にはなければならないものです。みんなが責任感を持たないと全てのことが中途半端に終わってしまうからです。そうならないためにも今回学んだ責任感を強く持ち、これからの生活や仕事に活かしていきたいです。

今後の展望・新たな取組み

私は今回の活動で学んだことを今後活かしていきたいと思っています。私は高校を卒業後、地域問題や社会問題を詳しく学ぶために大学に進学します。今回の活動でも獣害という淡路島ならではの地域問題に関わることができました。今回はレトロ口こみちへの参加でしたが、大学では実際に自分たちでイベントを企画し、開催したいと考えています。他にも地域問題を抱えている方に実際にお会いし、どうすれば力になれるか、解決することができるかを深く考えていきたいです。

また、普段商業科で学んでいる付加価値やマーケティングを活かし、実際に商品を販売できたのは私にとってとても大きかったです。商品を売るためにはどんなことが必要なのか、どういう風な接客をすると商品は売れやすいのか、高校生の中に学べてとても貴重な体験でした。お客さんの年齢層が幅広かったので、子どもには分かりやすく、理解しやすいように簡単な言葉で説明したり、高齢の方には優しく少し声を大きめに話したり、それぞれの人に合わせて会話の仕方を変えることも大切だと感じました。私は将来、地域に関わった仕事に就きたいと考えているのでそれぞれの人の個性によって分かりやすいように話をすることの難しさも感じました。

今回の活動では私たちが主体となり、企画を考えたり、アポイントを取ったり、販売数量を決めるなど将来に役立つことがたくさんできました。このことを活かし、これからは自分たちができることは自分たちです。誰かに頼るのではなく、まずは自分から積極的に活動することが何においても大切だと感じました。当たり前のことを当たり前に行うのはとてもすごいことです。今回の活動の中でも取り組んだSDGsやフードロスもそのひとつです。ゴミをポイ捨てしない、食べ物を捨てない、当たり前のことが当たり前に行えていない人がこの世界にはたくさんいます。そのような人で溢れるのではなく、自分から考えて行動できる人で溢れてほしいです。

私は今回の活動で自分に少し自信ができました。話すことが苦手だった私が、班のリーダーとして普段関わらない大人の方と話したり、インタビューをしたりすることで自信がつくようになりました。

また、私は人の笑顔を見ることが大好きです。今回の活動でそのことに改めて気づくことができました。商品を買って頂いたお客さんの笑顔、ワークショップでどんぐりアートが完成したときの子どもの笑顔を見ると大変だったこれまでのことを忘れ、とても幸せな気持ちになりました。この笑顔のためにこれまで夜遅くまで頑張ってきたんだと強く感じる事ができました。この活動の副題でもある幸せサイクルを実際に感じる事ができ、とても良かったです。大学に進学してから就職してからも人の笑顔のために頑張ろうと強く感じました。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	近畿
グループメンバー	氏名①	惣田 羽音		氏名③	
	氏名②	堂崎 明星		氏名④	

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立淡路青少年交流の家		修了日	2021/4/23	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	南あわじ市にあるうずの丘に行き、商品陳列を見せていただき、どういう風に商品を並べると売れやすいかを知ることができました。実際にお店の商品陳列を見ることで、商業について更に詳しくなりました。					
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/1/30					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	城下町洲本再生委員会 会長		イベントでの出店を受け入れて頂いた。		
	氏名	野口 純子				
	所属	認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 理事長		八木馬回産木材を用いた加工品の販売許可を頂いた。		
	氏名	木田 薫				
	所属	八木馬回清流の里会		伐採した木材を提供して頂いた。		
氏名	堤 様					
協力者総数	20名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 18 日

事前:準備・打合せ	15日	本番:メインの活動	2日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	公式のInstagramアカウントでイベントの告知や当日の様子を公開した。
新聞	取材された	2回	準備や当日の様子を、それぞれ新聞社から取材を受け掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/25 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	八木馬回集落	集落や森を視察し、地元住民のお話を伺った。
6/8 ~ 6/8	①事前学習・打合せ等	ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)	取り組み等のお話を伺うとともに、協力を依頼した。
6/29 ~ 6/29	①事前学習・打合せ等	レトロこみち事務所	10月のイベント(レトロな町歩き)に出店させて頂けるようプレゼンを行った。
9/7 ~ 10/13	①事前学習・打合せ等	八木馬回集落等	野菜や加工品などの仕入れやポップ作り、ワークショップ等のイベント準備を行った。
10/15 ~ 10/16	②実践活動本番	洲本市公民館	イベントで出店し、八木馬回産の商品を販売とワークショップを行った。

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔を！持続可能な幸せサイクル！



惣田 羽音(そうだ はおと)
兵庫県立洲本実業高等学校 3年

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔を！持続可能な幸せサイクル！

惣田 羽音



活動概要

活動の内容

11月15日(土)と16日(日)に、城下町洲本再生委員会が主催する「レトロなまち歩き」においてブースを出店しました。自然豊かな淡路島だからこそ抱える獣害の問題を多くの人々に知ってもらい、少しでもそれを解決することを目的として、地域住民や島外からの観光客を対象に、南あわじ市八木馬回集落で獣害対策として伐採した木を加工したカッティングボードや同地区で採れた農作物、果物を使用したジャムを販売しました。また活動を広めるために、同地区産のヒノキを利用してどんぶりアートを作るワークショップを行いました。

活動の特徴(新規性・発展性)

八木馬回集落で獣害対策として伐採された木でカッティングボードを作るために、NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路さんで働く就労弱者と呼ばれる方々に加工していただいています。獣害で苦しむ農家さんたちだけではなく、様々な個性を持つ人たちも仕事が増えて笑顔になる。またその製品を使う私たちも笑顔になる。持続可能な幸せサイクルを作ります。今後更に商品開発を進め新たな仕事をたくさん作り出していきます。

活動の成果

八木馬回の獣被害について地元の人たちや観光客の人たちに知ってもらうことができたと思います。また商品の販売を通して、まだまだ小さいですが、幸せなサイクルを実現することができました。ワークショップでは、「都会に住んでいると、木や木の実に触れる機会がない。」と言って積極的に取り組んでくれるお客さんがいました。今後も都会の方々に、八木馬回集落を始め、地方が抱えるこの問題について広めていきたいです。

課題の設定と意図

私たちは地元淡路島が大好きです。2年生時のフィールドワークを経験し、より地域に愛着が湧き、未来の淡路島の活性化のために何かできないかと思うようになりました。淡路島は観光業が盛んで、近年では西海岸に新しい商業施設が次々にオープンしています。当初は明るい側面には目がいきませんが、自然豊かな淡路島だからこそ抱える問題があるのではないかと考え始めました。

地域で活躍している方や行政の方々から話を聞いたり、フィールドワークを重ねる中で獣被害の問題を知ることになりました。南あわじ市の山間にある直径4kmほどの八木馬回集落を訪れ、地元住民に話を聞くと、集落では人口が減少し、植林計画がうまく引き継げず、森が荒れた状態になったそうです。対策として林地と畑・水田の境界に20mのバッファゾーンを作り始めているとのことでしたが、農作業の片手間であり、お金にもなりにくい作業なので思うように進んでいないと話してくれました。そこで、伐採した木の使い道が広がれば、より伐採が進み、問題が少しでも解決するのではないかと考え、これを課題に設定しました。

課題解決のための仮説と計画

まず、伐採された木の使い道を広げるために何をすればいいのかをみんなで話し合いました。そこで、木材を使った新しい製品を作り、それを人が集まる場所で販売するとともに、同時に八木馬回集落の獣害問題を知ってもらい支援を募るのが良いのではないかと考え、実行することになりました。まず自分達の力では木材を使った製品を作ることが難しいので、ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)さんに協力を依頼することになりました。そこでは、外国産の木材を使って、カッティングボードを作るという活動をされていたので、八木馬回産の木材を使ったカッティングボードを作ってもらえるようお願いしました。次にどこで販売するかを考えました。地元の洲本市で1番多くの人々が集まるイベントである、レトロなまち歩きに目をつけました。ブースを出店させてもらえるよう、プレゼンを聞いてもらい、イベントに参加させていただけるようになりました。またSODAさんに、神戸市東灘区の読売新聞甲南販売さんを紹介してもらい、都会の方々にもPRできる場を与えていただきました。12月4日にレトロなまち歩きと同様のイベント開催を予定しています。次に、どうやってより多くの方に八木馬回集落の獣害問題について知ってもらうかを考えました。ブース内にパネル展示をすることに加えて、同地区産の木材を用いてワークショップを行うことで多くの人々が集まるのではないかと、そして子どもを対象にすることで親子で参加してもらい、この問題について話をするきっかけを作れるのではないかと考えました。また、ブース内ではカッティングボードの他に、八木馬回で収穫された新鮮な野菜や、未利用の果物を使ったジャムを販売することで、より八木馬回の生活や私たちが守るべきものをイメージできるようにしようと考えました。そして、ブース内には新たな商品開発の資金を集めるために、支援金箱を設置することになりました。



活動で工夫できたこと

この活動で工夫した点は、商品売るためにどのような付加価値をつければよいのかということです。ただ単に、商品を置いて売るのは一番売りたいものやおすすめ、商品を作ってくれた人の想いなどが伝わりません。なので、私たちは付加価値を付け、消費者に淡路島の良いところ・八木馬回集落の良いところをより知ってもらいたいと思いました。一番私たちがメインとしたものはカッティングボードという木のまな板であり、獣害対策として切った木を使用しており、たった一つのカッティングボードの中にもたくさんの“繋がり”があり、繋がりエピソードを知ってもらうにはどうすれば良いのか？ということを考えました。カッティングボードの付加価値としては、イラストを元にエピソードを紹介したり、カッティングボードの使用例、どのような人の協力があつたのかなどを伝える事にしました。その結果、私たちの想いはもちろんの事、商品を作ってくれた人の想いも伝えることができ、カッティングボードを始めたたくさんの商品を知り、食べてもらうことができました。私たちが考えまとめた付加価値をつけることができよかったです。また、工夫した点はもう一つあり、エコバッグ作りです。現在世界中で注目されているSDGsに参加できました。SDGsの12番;つくる責任 つかう責任、14番;海の豊かさを守ろう の二つに取り組むことができました。レジ袋を使わないようになっていなくても商品は買い物袋に入れたいと思いました。そこで私たちは、新聞紙でかばんを作ろうという考えになりました。いざ、エコバッグ作りを始めましたが、1つ作るのに30分程度かかってしまうため大変でした。しかし、実際に商品を手渡しする際にお客さんに「このかばんすごいね！手作り？」と褒められることが多く非常に達成感がありました。



活動で得た学び・気づき

この活動で得た事は、チームで一つのことをやり遂げることの面白さを体験出来たことです。この活動ではたくさんやらなければならない事があり、授業日数としては1週間に3時間と少ない時間内で商品ポップ作り・ワークショップの準備・エコバッグの作成・商品の販売数量・八木馬回集落への訪問などたくさんの事をしなければなりません。そこで3グループに分かれることになりました。1. ワークショップ・カッティングボードグループ 2. 商品ポップグループ 3. 商品数量・陳列・野菜・ジャムグループに分かれました。3.4人1グループと少ない中で一人一人がしっかりと与えられた仕事をこなし、困っているグループ、人がいたらサポートに入る。この工程を繰り返していき一つの私たちの活動が完成した時の達成感が凄く良く、やりがいを感じることができました。これからのことからチームで一つのことをやり遂げた事はとてもおもしろかったです。また、学んだことは、目標・最終段階を常に意識したこと。自分たちがどんな物をつくり上げたいのか？ということを中心に活動しました。私は、お客さんと八木馬回集落の方々を”幸せに”ということを常に考えていました。このwood luckプロジェクトは幸せを運ぶプロジェクトです。八木馬回集落の活動や野菜、果物をよりたくさんの人に。まず、淡路島の一人でも多くの人に知ってもらい、そして淡路島以外の人に知ってもらう。その橋渡しを私たちはしました。私は、商品陳列・商品数量・野菜・ジャムのグループで活動しました。生産者の想いをどうやって届けるのか、ということから、私たちは”生産者さんの声”というものを作りました。どんな想いで作ったのか、苦労ややりがいなど普段の生活ではあまり知れないことを知れたりしました。問題点として、お客さんも私たちが中々紙に書いたものだけでは注目して見ようと思う人は少ないので、私たちの言葉でしっかりと伝えるようにしました。このことは普段と置き換えができません。やはり字で書いただけでは誰も注目はしません。しかし、言葉でしっかりと伝えることにより耳を少しでも傾けてくれます。なので、自分達も生産者さんのエピソードに耳を傾け、自分達で話をまとめお客さんに伝えました。レトロ小道出店日に、野菜やジャムを食べて幸せになる人・商品をより多くの人に食べてもらえた生産者の人の”幸せ”の架け橋になれば私も幸せになりました。作り上げたい目標・最終段階を常に意識したことによりみんなが幸せになれる。そんなプロジェクトを完成できたように感じます。この目標・最終段階を意識することは将来仕事や学校生活にきつと役に立つ時があると私は思います。今回の活動を生かし将来に繋げていきたいと思っています。

今後の展望・新たな取組み

このような大変貴重な活動を生かし、今後は将来に役立てたいと考えています。私は将来保育士になりたいです。このプロジェクトの活動では、たくさんの幅広い年層の方と関わることができました。企画段階では、企画説明・インタビュー・電話対応など社会人の方と実際に関わり、普段の学校生活では体験できないことをしました。また、イベントでは商品説明・ワークショップなど小さなお子様を始めた地域の皆様と関わることができました。たくさんの方々と関われたなかで、将来になりたい職業である保育士になる為に必要である知識を身につけ、経験ができたと思います。例えば、子供たちの一日のスケジュールを考えて上司に報告したり、親御さんに一日の出来事を伝えたり、基礎である電話対応に近い練習ができたと思います。それらに共通している能力としては、コミュニケーション能力だと私は思います。この活動でたくさんの方々の人とかかわる中で、コミュニケーション能力が向上できたように感じます。この身につけられた、コミュニケーション能力を生かし誰からも必要とされる一人の人間、保育士になりたいと思います。また、この活動ではSDGsに取り組むことができました。この活動の主なSDGsは3つあり11:住み続けられるまちづくりを 14:海の豊かさを守ろう 15:陸の豊かさを守ろう の3つが関連しています。3つも関連しているの！？と私は最初は驚きました。しかし、SDGsは17つもの人類がこの地球で暮らして行くために、2030年までに達成すべき目標です。SDGsの活動に参加できたことはうれしいですが、まだまだ問題解決には手が届かないレベルです。なので、この活動だけでなく普段の暮らしからもSDGsを心がけていきたいとおもいます。例えば、資源ごみをリサイクルできるように正しく分別をしたりすること、電気を使わない時は消し・水も消費量をすくなくすること、将来教員として子どもたちにいじめや差別を無くすために取り組んだり普段からできることはしっかりと今後取組み、子どもたちまた大人たちにもよりSDGsについて知ってもらい一人一人が心がけ少しずつ問題を解決していけるようにしたいです。また、この活動の中で自分たちが一から作った商品は一つもありませんでした。お客さんから「この商品実業生が作ったの？」と聞かれることが多々ありました。自分たちが開催しているお店のなかに自分たちの作品はない。この意見を聞いて同感しました。この意見が一番の心残りであり、来年度でも私たちの活動を後輩たちが引き継いでくれると思います。来年度では、私たちの心残りである部分+今年度以上の活動にしてほしいです。また、後輩たちも私たちのように心残りがないような誰からも評価されるいい活動をしてほしいと思います。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	近畿
グループメンバー	氏名①	澤田 梨瑚		氏名③	
	氏名②	堂崎 明星		氏名④	

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立淡路青少年交流の家	修了日	2021/4/23	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	南あわじ市にあるうずの丘にてフィールドワークをしました。お客さんが楽しめるように色々従業員の方々が試行錯誤をしていたところが一番印象に残っています。今回の活動にも生かされた部分がありました。				
実践活動期間	2020/4/20 ~ 2020/1/30				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	城下町洲本再生委員会 会長		イベントでの出店を受け入れて頂いた。	
	氏名	野口 純子			
	所属	認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 理事長		八木馬回産木材を用いた加工品の販売許可を頂いた。	
	氏名	木田 薫			
	所属	八木馬回清流の里会		伐採した木材を提供して頂いた。	
氏名	堤 様				
協力者総数	20名				

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 18 日

事前:準備・打合せ	15日	本番:メインの活動	2日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	公式のInstagramアカウントでイベントの告知や当日の様子を公開した。
新聞	取材された	2回	準備や当日の様子を、それぞれ新聞社から取材を受け掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/25 ~ 5/25	①事前学習・打合せ等	八木馬回集落	集落や森を視察し、地元住民のお話を伺った。
6/8 ~ 6/8	①事前学習・打合せ等	ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)	取り組み等のお話を伺うとともに、協力を依頼した。
6/29 ~ 6/29	①事前学習・打合せ等	レトロこみち事務所	10月のイベント(レトロな町歩き)に出店させて頂けるようプレゼンを行った。
9/7 ~ 10/13	①事前学習・打合せ等	八木馬回集落等	野菜や加工品などの仕入れやポップ作り、ワークショップ等のイベント準備を行った。
10/15 ~ 10/16	②実践活動本番	洲本市公民館	イベントで出店し、八木馬回産の商品を販売とワークショップを行った。

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔を！持続可能な幸せサイクル！



堂崎 明星(どうぎき あかり)
兵庫県立洲本実業高等学校 3年

Wood Luck プロジェクト

みんなに笑顔！ 持続可能な幸せサイクル！

堂崎 明星



活動概要

活動の内容

11月15日(土)と16日(日)に、城下町洲本再生委員会が主催する「レトロなまち歩き」においてブースを出店しました。自然豊かな淡路島だからこそ抱える獣害の問題を多くの人々に知ってもらい、少しでもそれを解決することを目的として、地域住民や島外からの観光客を対象に、南あわじ市八木馬回集落で獣害対策として伐採した木を加工したカッティングボードや同地区で採れた農作物、果物を使用したジャムを販売しました。また活動を広めるために、同地区産のヒノキを利用してどんぶりアートを作るワークショップを行いました。

活動の特徴(新規性・発展性)

獣害対策として伐採された木の使い道が広がることで、獣害が減り、新しい仕事も生まれる。そしてたくさんの農作物が収穫できる。幸せなサイクルを作るための私たちのWood Luckプロジェクトです。また子どもたちを対象にして、八木馬回産の木材を使用した工作体験を行うことで、楽しみながら、地域課題について知ってもらうことができます。また親子で獣害問題について会話するきっかけを作ることができます。

活動の成果

2日間を通して、たくさんの方がブースを訪れて下さり、八木馬回集落のことを広く知ってもらうことができました。また少しですが、商品を販売することで、集落の農家さんたちやSODAで働く皆さんに喜んでいただけたことができました。イベントの初日に買ったジャムを、「美味しかったよ!」と言って、2日目にもう一度買いに来てくれるお客さんもいました。たくさんの方々に笑顔を届けられたと思います。

課題の設定と意図

私たちは地元淡路島が大好きです。2年生時のフィールドワークを経験し、より地域に愛着が湧き、未来の淡路島の活性化のために何かできないかと思うようになりました。淡路島は観光業が盛んで、近年では西海岸に新しい商業施設が次々にオープンしています。当初は明るい側面には目がいきませんが、自然豊かな淡路島だからこそ抱える問題があるのではないかと考え始めました。

地域で活躍している方や行政の方々から話を聞いたり、フィールドワークを重ねる中で獣被害の問題を知ることになりました。南あわじ市の山間にある直径4kmほどの八木馬回集落を訪れ、地元住民に話を聞くと、集落では人口が減少し、植林計画がうまく引き継げず、森が荒れた状態になったそうです。対策として林地と畑・水田の境界に20mのバッファゾーンを作り始めているとのことでしたが、農作業の片手間であり、お金にもなりにくい作業なので思うように進んでいないと話してくれました。そこで、伐採した木の使い道が広がれば、より伐採が進み、問題が少しでも解決するのではないかと考え、これを課題に設定しました。

課題解決のための仮説と計画

まず、伐採された木の使い道を広げるために何をすればいいのかをみんなで話し合いました。そこで、木材を使った新しい製品を作り、それを人が集まる場所で販売するとともに、同時に八木馬回集落の獣害問題を知ってもらい支援を募るのが良いのではないかと考え、実行することになりました。まず自分達の力では木材を使った製品を作ることが難しいので、ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)さんに協力を依頼することになりました。そこでは、外国産の木材を使って、カッティングボードを作るという活動をされていたので、八木馬回産の木材を使ったカッティングボードを作ってもらえるようお願いしました。次にどこで販売するかを考えました。地元の洲本市で1番多くの人々が集まるイベントである、レトロなまち歩きに目をつけました。ブースを出店させてもらえるよう、プレゼンを聞いてもらい、イベントに参加させていただけるようになりました。またSODAさんに、神戸市東灘区の読売新聞甲南販売さんを紹介してもらい、都会の方々にもPRできる場を与えていただきました。12月4日にレトロなまち歩きと同様のイベント開催を予定しています。次に、どうやってより多くの方に八木馬回集落の獣害問題について知ってもらうかを考えました。ブース内にパネル展示をすることに加えて、同地区産の木材を用いてワークショップを行うことで多くの人々が集まるのではないかと、そして子どもを対象にすることで親子で参加してもらい、この問題について話をするきっかけを作れるのではないかと考えました。また、ブース内ではカッティングボードの他に、八木馬回で収穫された新鮮な野菜や、未利用の果物を使ったジャムを販売することで、より八木馬回の生活や私たちが守るべきものをイメージできるようにしようと考えました。そして、ブース内には新たな商品開発の資金を集めるために、支援金箱を設置することになりました。



活動で工夫できたこと

活動で工夫できたことは、物の価値をどうやって人に伝えるかです。私たちが販売させて頂いたカッティングボードは品質が良いぶん少し値段が高くお求めにくい値段設定となっていました。それでも私たちはカッティングボードの価値を伝えることを頑張りました。その中でも主に、カッティングボードの材料として使わせていただいた八木馬回地区で獣害被害により、野菜が荒らされることなどを聞きました。そこで私達は実際に八木馬回地区に行かせて頂きました。自然豊かで素敵な所だと言うことを自ら肌で感じ、私たち自身で綺麗な島を守っていきたい。守る手伝いがしたいと強く感じることで私たちが実感し、その思いをどうすれば相手に伝わるかを考えました。動画や木を提供して下さった方のプロフィールを制作しました。動画ではなるべくわかりやすく八木馬回地区のことも私たちの活動のことも同時に知っていただくように工夫し、動画内の写真などはなるべくひと目でなにをしているのか、どういう状況なのかわかるような写真を使いました。ワークショップ当日には実際に来て頂いたお客様が1番目につきやすい所に動画を配置し、なるべくたくさんの人に見て頂きましたプロフィールは写真を沢山使い、一目で八木馬回地区がどんな所かや、このカッティングボードの木は誰によって作られたかなど、なるべくたくさん情報を端的に分かりやすく書かせて頂きました。このような小さなことではありますが、その積み重ねによって少しですが、カッティングボードを買っていただけました。その時はとても嬉しく、達成感がとてもありました。次回のワークショップでは、今回よりもカッティングボードを沢山売りたいと思い、これからもたくさん考え寄り良い形にしていきたいと思っています。



活動で得た学び・気づき

今回の活動で得た学びは、ものを売ることや、ワークショップをして頂くにあたり、人とのコミュニケーションの大切さを学びました。

普段では、自分と歳の近い人や、学校の先生などといった知っている人とのコミュニケーションは積極的にとり、自分自身でも出来ていると思っていましたが、ワークショップを体験してみて、小さいお子様などに教えたりする時に言葉が出てこなかったり難しい言葉を使ってしまったりすることが多々ありました。逆に自分より年齢の高い方では、接客や説明を丁寧な言葉でするときに時より言葉がおかしくなったり、会話に困ってしまったりなど普段ではあまり気づきませんでしたが改めて気づきました。人にもものを伝えることは自分自身もそのものに関しての知識が必要であり、知識不足だと今回のように言葉が詰まってしまうのだと思うので、改善点としては私達が全員売るものやワークショップなどに対しより知識を増やしたいと思います。

もうひとつは呼び込みです。お店に立ち寄りていただいた方には話しかけに行くことが出来たのですが、自らが前に出て声をかけに行くことは数名しか出来ませんでした。性格上向いている人向いていない人はあるとは思いますが、このような貴重な場面で声をかけるというのはこれからの生活にとってとてもいい経験になると私は思います。なので話しかけ方やどうすれば人は興味を示してくれるかなどを考えることが大切だと思いました。例えば、ワークショップだと、何をしているのかどういうものなのか、値段や、所要時間などを的確に伝えることが大切だと考えました。それでも立ち止まっていただけだと、説明することは難しいので、やっている所を通りかかる際に見て貰えるようにするなどの工夫をしたと思います。前回ではお客様が通られる側に背中を向けている形になる方々が多いことや、好評につき、人が多くなってしまい、何をしているのかが見えない。わからないといった反省点はこのように改善したいと考えました。

販売の方では、お金の受け渡しや、購入して頂いたお客様に商品を渡すのに手間取ってしまい待たせてしまうことがあり、その間にも沈黙になってしまうなどといったことがありました。この改善点としては、販売の方には必ず2人以上配属されているので、商品の梱包などに時間がかかる場合はもう1人がお客様とお話をするといったことをし、少しでも退屈な時間にさせないということを心がけ、梱包については、スムーズに出来るように前もって練習することや当日の袋の配置や場所の確保などを入念に行うことで改善出来るかと考えました。

このように全てのことを通してコミュニケーションは販売やワークショップをするにあたって避けては通れない道だと実感し社会に出てからも必ず差し掛かる問題だと思いました。今回の活動で少しづつ慣れ、なるべく積極的に挑戦していこうと思いました。

今後の展望・新たな取組み

今回の活動を通し、今後の展望や新たな取組みに関しては、私は高校卒業後就職します。就職先でも必ず人と関わることはあると思うので、人との関わりを大切にし、今回の活動で学んだことを活かし立派な社会人になりたいです。挨拶、礼儀、マナーなどといった一件普通で当たり前のことを当たり前に出来るような人になり、言われなくても自分から気づき人の助けになれるように頑張りたいです。そのためにも、どんなことにも迷うことなく挑戦し少しでも多くの知識を増やしたいと思います。

知識を増やすことによって、また全然関わりのなかった方々と関わることや、共に知識を深めた方とは、どんなことでも相談ができ、心を許せるような友人となれると思いました。私は社会人になってもスポーツを続けようと思っているので、たくさんの方々の関わりを持つことが出来ると思っています。ただ関わりを持つだけでなく、今回の活動で学んだことを活かし、自ら積極的に声をかけに行き自分できっかけを作り、関わりを増やしていくことが大切だと考えています。自分自身では自ら声をかけに行くなどといった積極的に行動をすることが出来ると思っていたのですが、今回の活動で自分が思っているより、大人の方と関わることは緊張もするし、話しかけに行くことに対して抵抗があったりしました。成長出来ただけではなく、自分自身の出来ないことや苦手なことなど課題がたくさん見えとてもいい経験となりました。ひとつの活動だけでこんなにもたくさんの方々と関わらせて頂き、本当にとても良い経験をさせていただきました。自分自身が凄く成長することが出来た活動だと思っています。なので私は、社会人になってもこのような活動があれば進んで参加し今まで以上に頑張りたいです。自分自身だけでなく、次は周りの方々の助けになれるように頑張りたいです。今回の活動で私たちはたくさんの方々の支えや助けのおかげでワークショップを実施し、たくさんの方々に来て頂き、大成功と言う形で終わらせて頂きました。今回の活動をただの成功で終わらせるのではなく、助けていただいた分私たち自身の力で私たちの意志でたくさんの人を助けたいと思います。

ワークショップは今回1種類しか実施することが出来ませんでした。他にもたくさん種類を実施することが出来れば、たくさん年齢層の方々に来て頂き今回よりもっとたくさんの方々と関われるのではないかと考えました。種類を増やすことで、運営する側としての負担は比べ物にはならないぐらい大変になりますが、1度目の経験を活かし改善できる所は改善し、よりスムーズに接客が出来ると思うので種類を増やしてもっとたくさんの方々に楽しんでいただければいいなと思い、次回の活動に活かしていきたいと思いました。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	無	エントリー単位	グループ	ブロック	
グループメンバー	氏名①	澤田 梨瑚		氏名③	
	氏名②	惣田 羽音		氏名④	

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立淡路青少年交流の家	修了日	2004/4/20	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	うずの丘に行かせていただき、工夫していることなどを教えていただきました。例えば椅子を玉ねぎをモチーフに作るなどをしていました。学校では学ぶことのできない実践的なことを学ぶことができました。				
実践活動期間	2022/4/20 ~ 2022/11/30				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	城下町洲本再生委員会 会長		イベントでの出店を受け入れて頂いた。	
	氏名	野口 純子			
	所属	認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路 理事長		八木馬回産木材を用いた加工品の販売許可を頂いた。	
	氏名	木田 薫			
	所属	八木馬回清流の里会		伐採した木材を提供して頂いた。	
氏名	堤 様				
協力者総数	20名				

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 18 日

事前:準備・打合せ	15日	本番:メインの活動	2日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	公式のInstagramアカウントでイベントの告知や当日の様子を公開した。
新聞	取材された	2回	準備や当日の様子を、それぞれ新聞社から取材を受け掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/25 ~ 5/25	②実践活動本番	八木馬回集落	集落や森を視察し、地元住民のお話を伺った。
6/8 ~ 6/8	①事前学習・打合せ等	ソーシャルデザインセンター淡路(SODA)	取り組み等のお話を伺うとともに、協力を依頼した。
6/29 ~ 6/29	①事前学習・打合せ等	レトロこみち事務所	10月のイベント(レトロな町歩き)に出店させて頂けるようプレゼンを行った。
10/15 ~ 10/16	②実践活動本番	八木馬回集落等	野菜や加工品などの仕入れやポップ作り、ワークショップ等のイベント準備を行った。
10/15 ~ 10/16	②実践活動本番	洲本市公民館	イベントで出店し、八木馬回産の商品を販売とワークショップを行った。